



教室初日に行われるゲームを通し子供たちは一気に仲良しに（写真）。自然教室最大のお土産は、たくさんの新しい友達。ともに成長する仲間。



森の中を探検中に巨大なミズナラの倒木を発見（上写真）。子供たちは大自然の中でそれぞれの発見を積み重ねながら成長していく。

しれとこで夢を育てませんか！
100平方メートル運動の森
トラスト 北海道斜里町

知床自然教室
NATIONAL TRUST
The Wilderness Heritage Foundation

今年3月にしれとこ100平方メートル運動の三十周年を記念したシンポジウムが地元斜里町で行われました。運動の経過や歴史的意義、これまでの成果などが発表される中、運動と参加者をつなぐ交流事業の一つとして行われている知床自然教室について私も運営スタッフとして過去参加者として体験したことを話しました。そこで出されたのが、「知床自然教室は環境教育の成功例ではないか」とのコメント。私はハッとしました。

夏の一週間に開かれ、全国各地から子供たちが集まります。今年は三十三名が参加しました。彼らを見てみると、自分が参加者だった時のことと重ね合わせてしまいます。教室初日は嫌々トレットペーパーで食器を拭いていた子どもが最終日には当たり前のように拭き、ヒクマを怖がっていた子どもが「ホイホイ」と自分の存在をヒクマに知らせる大きな声を出してから歩き出したり。たった一週間でこんなに変わるのかとびっくりするほど、たくましく成長します。

原体験が自然教室。卒業生は今。知床の自然が大好きで、この自然を守るために働きたいと思う私。そんな私の原体験が知床自然教室です。世の中で一番素敵な場所が知床で、一番楽しいことは自然教室だと思ってきました。今、こうして知床財団で働いているのも、自然教室がきっかけです。私だけではありません。この教室の過去参加者には、現在自然と関わる分野で活躍している人たちがたくさんいます。私や当財団松林のように、知床に戻って働く者もいれば、知床から離れた場所に拠点を置き、ガイド会社やアウトドア関連企業で働いたり、環境教育に携わっている人もいます。環境教育の成功例とまでいかずとも、皆、自然教室で学んだことが、自然に対する姿勢や価値観、そして進路選択まで少なからず影響したのだと思います。

多くの子供たちにとって、自然教室は何から何まで日常とかけ離れた衝撃的な出来事。連続。荒療治ともいえませんが、それ以上に、子供たちが自分自身で気づき考えるきっかけが与えられているのです。

自然への畏怖のこころを学ぶ

一週間の体験が子供を変えよう。知床の大自然の中で野生動物の気配を身近に感じながら、テント張りから「飯作り」、そして森づくりのお手伝いまで自分たちで行うのが知床自然教室。セミの声「たまする真」

自然教室では、ヒクマ対策のため調理場と食糧の保管場所、寝る場所は距離をおいてあります。「飯にありついため、子供たちは毎日何度もこの三か所を往復します。朝には露でスポンをべしゃべしゃにして、夜には暗闇をかき分けながら、なぜか手でする必要があるか子供たちは考えるのです。また、女の子たちは教室初日にいきなり生理ナプキンの話をされます。生理中の人はいますか？ 月経血はヒクマを強烈に誘引するものだから、使用済みナプキンとトレットペーパーは毎日回収するよ、と。そして中身の見えない黒い「ニール」袋をそっと手渡されるのです。小学生の私は相当ドキドキ、夜にはヒクマがテントを襲いにくるのではないかと思ったものです。

一週間の体験が子供を変えよう

知床の大自然の中で野生動物の気配を身近に感じながら、テント張りから「飯作り」、そして森づくりのお手伝いまで自分たちで行うのが知床自然教室。セミの声「たまする真」

知床の大自然の中で野生動物の気配を身近に感じながら、テント張りから「飯作り」、そして森づくりのお手伝いまで自分たちで行うのが知床自然教室。セミの声「たまする真」

自分判断行動、助け合おう。ガスも電気も水道もなく、最低限の道具だけの生活。ヒクマもすくそばにいます。そんな野外での暮らしを成り立たせるのは、大人でも大変なこと。大人の必死な姿を見て、自分の力の及ばない世界があることを知り、謙虚な気持ちになりました。

食へると言われます。ショックでした。最近五右衛門風呂が導入され一度くらいはお風呂に入れますが、昔はそれありませんでした。少々過激な方法ですが、自分の周りを必要以上にきれいにすることが環境に負荷をかけること。何が「キレイ」であるかを優先すべきか、考えるきっかけになりました。

自分で判断行動、助け合おう

自然教室の参加者は出身も年齢も様々。知らない大きいお兄さんお姉さんに囲まれ、知床育ちの私には聞き慣れない関西弁や都会的な言葉が飛び交い、小さかった私は緊張しました。そんなところに一週間の食材をドンドン山積みで渡され、途方に暮れます。くじけても「飯はできませぬ、皆でひたいを寄せあつめて食材リストを見ながら、食料計画を立てます。水は全て自分たちで汲み、沸かさなければ飲めませんが、重たい水運ぶのは一苦労。けれど、自分たちでやり遂げなくてはなりません。普段の生活の便利さに気づくと同時に、自分の力で暮らす大変さや、協力することの大切さが身にしみました。また、自分よりずっと年下の子供たちも一緒に生活することで、自分の判断への責任感とワガママを言わず相手を思いやる心も芽生えました。

「教室効果」は持続する

キレイって何？ 体感し考える。飲み水を汲む川が汚れては困るので食器は洗えません。全てトレットペーパーで拭いただけなのですが、初めは汚く思えて仕方ありませんでした。カレイライスの日には拭うのが大変でペーパーが無駄になるから、パンで拭いて

「教室効果」は持続する。ふと、自然教室に行かなかつたら、今頃何をしていたかなあと考えることがあります。幼い頃から家族でキャンプや登山などに親しみましたが、それだけではただのアウトドア好きに留まっていたのかも知れません。自然教室に参加してから、山、海、空を見ることが好きになりました。自然の中に入っていき、心構え、知識、それらに裏付けられた行動力のおかげで、自然の中で「自由」に遊べ、楽しいと素敵なことを自分で発見できるよつになつてきたからです。

キレイって何？ 体感し考える

飲み水を汲む川が汚れては困るので食器は洗えません。全てトレットペーパーで拭いただけなのですが、初めは汚く思えて仕方ありませんでした。カレイライスの日には拭うのが大変でペーパーが無駄になるから、パンで拭いて

また、自然教室で得られる代え難いものに友人があります。自然教室で学んだことも、同じ体験をした仲間たちと教室後も共鳴しあうことで、何倍にも増幅されました。私や私の仲間たちはこの教室を通して知床の自然と共に成長し、そのスリットを胸に、今、全国各地でそれぞれの道を歩んでいます。

100平方メートル運動の森・トラストとは？

斜里町が主催する運動で、知床連山のふもとの860ha余りの土地をトラスト資産として保全し、原生の森と生き物たちをよみがえらせる活動を行っています。知床財団はその現地業務を担っています。

詳しくは： <http://www.town.shari.hokkaido.jp/100m2/>

知床自然教室とは？

知床自然教室は、知床の地元、斜里町が主催する『100平方メートル運動の森・トラスト』の一環で行われている、知床の森と運動参加者を結ぶ『しれとこの森交流事業』の一つです。毎年6泊7日の日程で開催され、知床の自然の素晴らしさ、そして100平方メートル運動の森づくりについて子供たちに伝え続けています。知床財団は斜里町と協力して、その企画・運営にあたっています。

詳しくは： http://www.shiretoko.or.jp/shizen_k/

知床の大自然の中での一週間。その体験は一生モノかもしれません。

子供を変える 知床自然教室

文一片山 綾 総務管理情報係



フードハンガー

食べ物や食器を入れた袋をヒグマの手の届かない高さに吊ります。



食糧保管庫

各班ごとに分けられたコンテナのなかに、一週間分の食料が入っています。

03 知床の森で暮らすための工夫 ヒグマ対策

ヒグマをはじめとする野生動物を誘引することがないよう、食糧やゴミの管理を徹底。これらは荷物搬送用の車の中や、ヒグマの手の届かないような場所に吊して保管されます。(ゴミをできるだけ減らす工夫もしています。野菜の皮などはむかずに調理し、余したご飯は班の連帯責任で半べそをかきながら無理矢理食べます。)それでも万が一ヒグマの出没があれば、知床財団スタッフが対応します。ここではヒグマを『クマさん』などと子供だましの言い方で呼ぶ人はいません。

04 大変だけど一番楽しい時間 ごはん作り

一週間分の食材が班ごとにまとめて渡されます。大人の役割は火や道具の扱いの監督役程度。どの食材をいつどれだけ使うか計画をたて、子供たち自身がメニューを決めます。教室後半には各班の間で足りない食材と余っている食材をヤミ取引する姿が見られ、最終日には「余り物カレー」「余り物ラーメン」等のメニューが各班から飛び出します。どんなメニューでも、みんな奪い合って食べます。



05 教室を満喫した後は・・・ 最終日用服セット

野外生活から戻ってきた後、「くさくない・きれいな服」に着替えるためです。知床からの帰路、飛行機や電車にも乗るであろう子供たちに、文明社会に耐えうる格好をさせてから帰ってやりたいというスタッフの親心(?)から始まったそうです。

五右衛門風呂

近年は、期間中一回くらいは五右衛門風呂が登場。お風呂に入れるヨロコビを実感。



CLOSE UP こんなことも自分でやります！ かまど・たきぎ作り



ご飯を炊くためのかまど作りやたきぎ集めも自分たちで行います。かまどは地面をはがして作りますが、最終日には元通りにします。たきぎは、完全な立ち枯れの木しか使ってはいけないルールになっていますが、最近はシカに食べられ枯れた木が増え、たきぎ集めが楽になりました。

CLOSE UP こんなことも自分でやります！ テント張り



大人にやり方を教わり、大きなテントを四苦八苦しなが自分たちで張ります。

01 自然教室の必需品 ナイフ

小学生でも高校生でもみんな1人1本自分のナイフを持っています。自然教室の装備に包丁やハサミはありません。日常生活のこまごましたことも、ご飯作りも、何でもこれ1本でこなします。初日はナイフの刃をおっかなびっくりさわっていた子どもも、最終日には上手に使いこなせるようになります。



02 水汲みは大事な勉強の時間 のみ水

川から汲んだ水を沸かして飲みます。エキノコックスなど野生動物からうつる病気があることを教え、生水は絶対に飲ませません。また、飲み水をとる川を汚さないよう教室中に洗剤はどこにも登場しません。洗剤の入った水の方がご飯の食べ残しの入っている水よりずっと危険だからです。子供たちは毎日苦労して水を汲みながら、自然の中では何が安全で、何が安全でないか考えます。



のみ水を汲む、キャンプ地の真ん中を流れる川。暑い日には足をひたして涼む場所でもあります(写真)。

28年間、
欠かすことなく行われてきた
知床自然教室。
森づくりのお手伝いのための
草むしりをしたり、山や川な
どにみんなで探検に出かける
日があったり、スタッフのさま
ざまな工夫をこらした企画が
満載の一週間です。各プロケ
ラムはリピーターが毎年半数
以上を占める自然教室で子
供たちに色々な経験をさせたい
もともと楽しませたいの思
いから、スタッフが毎年内容に
変化をつけて企画しています。
今年も森の奥深くを流れる音
むした沢への探検や、森や野
外生活での知識や技術を班対
抗で競い合う「第1回森ソビッ
ク」も行われました。
けれど、毎年変わらぬもの
もあります。知床自然教室
のルーツに基いた暮らしのスタ
イルそのものです。特別なプロ
グラムがなくとも、親元を離
れて大自然の中に放り込まれ
一週間そこで暮らすだけで
子供たちには大冒険。
子供たちには大冒険。
死ぬかと思っただけ
今年も自然教室運営責任者
を務めたスタッフ松林が小学
4年生で初めて参加したとき
の思い出を聞いたときの言葉
です。こんな感想が飛び出す
子供キャンプ、他にあるでしょ
うか？子供たちはいつかどん
な体験をするのでしょうか？

知床自然教室、のぞいてみませんか？
この教室ならではのキーワードとともにご紹介します

子供たちは こんな世界に投げ込まれます